



## ひなまつりの由来は

ひなまつりは桃の節句ともいわれています。

平安時代の日本には、五つの節句がありました。

人日（じんじつ）の節句 1月7日 七草粥を食べます。

上巳（じょうし）の節句 3月3日 桜餅の桜の葉

端午（たんご）の節句 5月5日 柏餅の柏の葉

七夕（たなばた）の節句 7月7日 笹の葉

重陽（ちょうよう）の節句 9月9日 菊の花 です。

平安時代の貴族の間では、この5つの季節のふしめの行事は、身のけがれをはらう大切なものでした。

平安時代、上巳（じょうし）の節句の日に人々は野山に出て薬草を摘み、その薬草で体のけがれをはらって健康と厄除けを願いました。この行事が、後に宮中の紙の着せかえ人形で遊ぶ「ひいな遊び」と融合し、自分の災いを代わりに引き受けさせた紙人形を川に流す「流し雛」へと発展してゆきます。

室町時代になるとこの節句は3月3日に定着し、やがて紙の雛ではなく豪華なお雛様を飾って宮中で盛大にお祝いするようになりました。さらに武家社会へと広がり、さらに裕福な商家や名主の家庭へと、広がり、今のひな祭りの原型となっていきました。